

前回に於ては女子大人について寝具構成による保温効果を検討したが、今回は女子児童につき一ヵ年間に亙り寝具構成が皮膚表面温度及び衣最内温度に及ぼす影響につき報告する。各季節の寝具を用いその重量比を6:4, 4:6, となし量の上で安静背臥位の睡眠時の皮膚温, 衣内温, 湿度, 日光照射による変化を構成別, 季節別に検討したものである。

1) 皮膚温, 衣内温ともに各季節を通じ寝具構成の如何によって変化し, 衣内温の変化は皮膚温の変化よりも大である。 2) 何れの季節及び構成に於ても就寝後3時間前後より反射運動が行われ皮膚温, 衣内温, 湿度共に大きく変化する。 3) 児童は大人に比して就寝後の温度上昇が早く低気温度に於ても快適温度は早く営まれる。 4) 湿度は就寝時の高湿より皮膚温上昇にともない低くなって行く。 5) 日光照射による温度変化は大人程著明ではない。